

おてんき てんきII

<2014>



もう一度
群馬・前橋市
堀越百寿子

庭のビワが色づき始めました。店頭にも形のいいおいしいそうなビワが並んでます。でも、私の知っているビワは、子ども頃食べた田舎のビワ。梅雨のころ、学校から帰ると、段々畑を駆け登り、ビワの木によじ登って採って食べた甘くて

保育士を辞めてから

埼玉・越谷市 三田寺しず江(78)

40歳で保育士を辞めました。年長さんを送り出し、たくさんさんの感動をもらいました。そんな時期に障害者福祉をやらなかったと誘いがあり、転職しました。

1年間はとても後悔しました。ほとんどデスクワークで1日座っているのが苦痛、主流になり始



宮城・石巻市 山内景子(87)

もう一度
岐阜・養老町
鶴野愛子

これも食育
自主夜間中学
福島・いわき市
新妻夏子

うちの庭のプランターには、中一の息子が植えたピーマンが元気に育っています。収穫できたらピーマンの肉詰めを作りたいと張り切っています。

夫がこの地で「自主夜間中学」を立ち上げて7年が過ぎた。

初めは、チラシを見てきたという成人男性と夫との「マンツーマン授業」だったが、現在、元同僚や「手伝いたい」と17人が先生として集まっています。生徒も同数ほど。生徒のニーズに合わせて、毎日忙しく出かけて

読者がつくる ページ

テーマ

私のターニングポイント

とても人間って強いなとつくづく感じたもので退職してしばらくたち

自分が好きになれた
大阪八尾市 田澤まゆ子(76)

高校までの私は、まったく「井の中の蛙」で、自分の殻に閉じこもり、世間が恐かった。大学に入ったとき、思い切ってセツルメントというサークルに飛び込んだ。そこでの仲間のやさし

読者のページ

庭の手入れができず雑草だらけでしたが、近ごろはアシサイが咲き始め、ビワの青い実もつき、少しにぎやかな庭になりました。フキはびっしりと生えているので、毎日摘んで、野球観戦の間、せっせと皮をむき、食卓に。阪神を応援している

犬山市で池に墜落する事故があったばかりなのに、おかずに出す量も減少します。残ったフキ

航空自衛隊小牧基地の近くを通りがかったときのこと。いつも上空を飛んでいる戦闘機が突然目の前に現れてビックリ。着陸するところだったようで、間近で見たらものすごく大きな機体でした。

このあたりは、沖縄の米軍普天間基地よりも周辺の人口密度が高いとか。近くに戦闘機整備やミサイル製造の工場があることで、戦争になったら標的にされるばかりでなく、墜落事故の心配が常につきまといま

庭の植物に
大阪・枚方市
菊川和栄(79)

間近で見た戦闘機
愛知・春日井市
ほまねこ

は明日食べよう。庭の植物に感謝。

光と風に
金沢市
山本静子

昨年11月に17歳のワンコをみどり、今春、後期高齢者の仲間入り。肺の一部を取ったので、ゆるゆるとした毎日。この季節は光と風が感じられ気が持ちが明るくなります。

原稿募集

☆テーマ：おすすめの映画／私のターニングポイント(転機)／戦後80年と私／部屋のかたづけ、私は…投稿や作品をお待ちしています。また、紙面への要望・意見などお寄せください。投稿は300字前後、短くする場合があります。住所・氏名・年齢・電話番号を、匿名希望の方はペンネームを書いてください。掲載した絵手紙は新婦人のSNSに掲載する場合があります。

あて先 〒112-0002東京都文京区小石川5-10-20
新婦人しんぶん編集部
ファクス03-5805-2372
Eメール s-press@shinfujin.gr.jp

読者文芸

あなたも短歌

下村すみよ 選

ヤコチャンと呼びかけてくるミロコチャン幼馴染の八十路のメール 埼玉 野田 泰子
 染の八十路のメール交換。互いを幼い頃のちゃん付けで呼び合う楽しさが伝わってきます。
 日を追ってつじの花の数ふえる毎日通う病院の庭 鳥取 倉見 和枝
 庭 鳥取 倉見 和枝
 評 気が重なりがちな通院を喜びに変える視点が素敵です。歌に詠めばなおさらですね。念ずれば叶うものかなあちゃんは「百まで生きる」百まで生きた 和歌山 柏原 京子
 評 迫力満点。一文字違いの四、五句が有言実行の祖母の、強い意志をよび伝えてくれています。
 米売り場「安い」と行列よみ見れば昨日五キロが四、一キロに 愛知 折目 恵子
 評 値上がり対策として中身を減らすとは、いくとせを生きて米寿となりたると米価高きに買えぬは悲し 広島 宮崎 恭子
 評 米(八十八)を寿へ歳に米価高騰とは。米と米寿の取り合わせが功を奏しています。

泣きながら鍋差し出して食べ物の配給を待つガザの子ども 大分 田中 仰美
 評 何とも痛ましい光景です。戦時の飢えを知る世代の方の思いはひとしおでしょう。
 髭焼かれ肉球やけどの猫生きて老飼主と奇跡の再会 岩手 柳沼 帝子
 評 傷ついた猫の具体的な描写が、結句の喜びを際立たせています。
 「どこまで帰るの」声かけられし富士真奈美さん同じホームの上りと下り 新潟 今井 慶子
 評 遠い昔の思い出のこと。固有名詞が顔と声を生き生きと浮かばせて印象深い一首。
 覚えはすんばるのの繰り返し八十過ぎての漢字書き取り 兵庫 西田 英子
 すみれ好き夫が逝きてはや四年又毛魔だつたね娘と話す 栃木 神山キエ子

作品募集「ハガキなどで編集部」あなたも短歌「係まで。作品は未発表のものに限ります。